



## 会 議 録

八幡市教育委員会

開催日時	平成30年8月30日(木曜日) 午後2時30分～午後3時15分		
場所	分庁舎2階 会議室A		
出席委員名	谷口正弘 (教育長)	佐野恵理子	
	松下順英 (職務代理者)	人見妃都美	
	橋本陽生		
委員を除く出席者の職・氏名	部長 佐野正樹	教育総務課主幹 長尾忠行	
	部次長 川中尚	学校教育課主幹 福田昌弘	
	部次長 西川茂男	学校教育課主幹 田中庄平	
	学校教育課長 辻博之	教育総務課 大崎茂夫	
	社会教育課長 西島昭彦		

## 1. 議題(協議事項)

(1) 平成31年度以降使用中学校「特別の教科 道徳」教科用図書に係る採択について

(2) 平成31年度使用小学校教科用図書に係る採択について



	内 容
[ 教 育 長 ] [ 西 川 次 長 ]	<p>定刻となりましたので、8月の臨時教育委員会を開催します。</p> <p>はい、教育長。本日の臨時教育委員会に1名の方から傍聴の申し出がございますので、報告いたします。</p>
[ 教 育 長 ]	<p>只今、事務局より報告のありました1名の傍聴の申し出に対しまして、委員会の傍聴の取り扱いは、八幡市教育委員会傍聴規則第1条で教育長の許可を得たものは、傍聴する事ができると規定されておりますが、委員の皆さんより何か、意見はありませんか。</p> <p>意見が無いようなので、教育長として可否を述べます。教育長として、傍聴を許可したいと思います。</p> <p>事務局から傍聴人に入場するように伝えてください。</p> <p>《傍聴人が入場し着席》</p>
[ 教 育 長 ]	<p>それでは、本日の議題であります「平成31年度以降使用の中学校「特別の教科 道徳」教科用図書の採択について」を審議した後に、「平成31年度使用の小学校教科用図書の採択について」を審議したいと思います。</p> <p><b>1. 議 題（協議事項）</b></p> <p>(1) 平成31年度以降使用中学校「特別の教科 道徳」教科用図書に係る採択について</p>
[ 教 育 長 ]	<p>平成31年度以降使用中学校「特別の教科 道徳」教科用図書に係る採択について 委員の先生方には、5月下旬頃から教科用図書について、検討していただいたと思いますので、ご意見等を積極的に言っていただけたらと思います。また、7月19日に山城教科用図書採択地区協議会で採択の協議がありました。事務局から参加しておりますので、参加した担当から報告をもらいながら、積極的なご意見をいただき、選定いただければと思います。</p> <p>それでは、まず、地区協議会の報告からお願いします。</p>
[ 福 田 主 幹 ]	<p>山城教科用図書採択地区協議会について報告します。</p> <p>第2回山城教科用図書採択地区協議会は、京都府田辺総合庁舎において7月19日に、協議会委員20名に対し出席委員19名が出席して行われました。また途中からさらに1名の出席があり、協議及び採択は20名でなされております。</p> <p>まず、会長のあいさつの中で、今回の選定についての基本的な観点が3点提示されました。1点目が、山城管内に若手教職員が増える中、若手の教員でも使いやすいか。2点目が、多様な価値観や意見がある中で、公教育としての公平性があるか。3点目が、児童生徒にとって使いやすく、主体的、対話的な学習ができるか。です。以上の3点を観点として、特別な教科道徳の教科用図書の選定の協議が行われました。</p> <p>初めに代表調査員より調査報告がありました。この調査報告は、平成31年度使用義務教育諸学校及び中学校、特別支援学級及び特別支援学校の教科用図書の採択基準及び基本観点到って調査研究が行われたものであります。</p> <p>調査報告の後、質疑応答を行い、採択委員での協議が行われ、最後に採択が行われ結果、全員一致とはならず、改めて投票の結果、廣濟堂あかつき株式会社が19票、日本文教出版1票となり、廣濟堂あかつき株式会社が採択されております。</p> <p>以上 山城教科用図書採択地区協議会の報告を終わります。</p>
[ 教 育 長 ]	<p>7月19日の山城教科用図書採択地区協議会について報告がありました。委員の皆様、このことについて何か質問はありませんか。調査報告及びその後の質疑応答につきまして質問でもかまいません。</p>
[ 人 見 委 員 ]	<p>代表調査員の調査報告の中で、今回の中学校道徳の教科書全体として特徴のようなものはありましたか？</p>
[ 福 田 主 幹 ]	<p>全体としまして、8社ともに、内容項目がバランスよく配置されており、一年間を通して、全ての内容項目を学んでいけるような配列になっているとのことでした。</p>



また、8社ともに、一つ一つの教材の後に、中心発問となるような発問例や自分自身への振り返り発問例が掲載されており、授業者にとっては、展開の筋道が示されているので、それに沿った形での授業展開が作りやすいと思われるということです。

ユニバーサルデザインにつきましても配慮されておりまして、カラー印刷であったり、また、フォントや漢字のルビなども、どの教科書も発達段階に合わせて工夫され、資料については、よく知っているスポーツ選手であったり、歴史上の人物であったり、子どもたちの興味・関心を惹くような教材がうまく散りばめられているとのこと。

[ 教育長 ] 全体的な特徴についての報告は、ありましたが委員の方々ご意見、ご質問はありますか

[ 佐野委員 ] 全体的な特徴についてはわかりましたが、各社の特徴というものもあると思います。各社の特徴についてはどのように報告されておりましたか？

[ 福田主幹 ] 各教科書の特徴ですが、  
東京書籍は、生徒作文が多く含まれております。  
あかつきは生徒の心を揺さぶるような長く読み継がれている定番教材、名作教材が多く含まれております。そのあたりバランスよく取り入れているのが日文とのこと。  
教育出版では、仮想の中学校現場を設定して、そこで起こっている様々な課題に対してドラマ仕立て考えさせ、同じ登場人物が何回も出てきて、子どもたちも親しみを持って向き合えるような扱いをしていること。  
日文につきましては、他と比べていじめについての資料が多いこと。  
光村については、少し型にはまった部分が多く、少し国語の教科書的なところがあること。

学研と日本教科書につきましては、いい教材ではあるのですが、内容的に少し難しいのではないかと見受けられる部分があること。

日文とあかつきの2社は、別冊で道徳ノートをつけています。

日文の道徳ノートは、教科書の資料における発問とリンクしており、1のワークシート、2のワークシート、3のワークシートというような形です。これまでは、教師が中心発問を考えて、ワークシートを作り、子どもたちに書かせていたのですが、日本文教出版では、別冊ノートの形で全て作ってあるというものです。

あかつきのものは、『心のノート』と同じような形式の道徳ノートとなっています。それを使って内容項目についての理解を一層深めていこうというものです。

また、各社とも、章末につきましては、色々と工夫がされていますが、内容理解のための基本発問、ねらいに迫るための中心発問、自分への振り返りのための発問、この3つのパターンで集約されていると報告されました。

[ 教育長 ] 各教科書の特徴について、報告を受けましたがご質問等は、ございますか。

[ 橋本委員 ] 採択委員の質問で、教科書や道徳指導の全体的なことに関わっての質問があれば、どんな質問で、どのように答えられておりましたか？

[ 福田主幹 ] 「資料の最初に目当てのある出版社とそうでない出版社がありますが、指導にどの程度の影響があるのか？」という質問には、

目当ての他、基本発問や中心発問などが書かれている教科書は、若い先生にとったら使いやすいだろうと思われそうです。ただ、それが逆に子どもたちの考えを狭めてしまう可能性も考えられます。特に来年度から評価が絡んでくるので、子どもたちが変に気を使ってしまって、この目当てだからこういうことを言わなければならないのではないかとなっていくと、ちょっとやりにくいと感ずるかもしれません。

同じような答えばかりが出てきて、子ども同士の対話にならないという弊害的なこともあり得る可能性があると考えたとき、目当てはないほうがいいのではないかと感ずられます。とのことでした。

また「小学校で道徳が始まっていますが、小学校で使用している教科書と中学校で採



択しようとする教科書会社とのつながりについて意識をしなくてはいけないものなのかどうか？」との質問には、

教科書会社はそれぞれ小学校用、中学校用ということで発達段階を考えた上での資料のつくり方であったり、データとして授業展開とか指導案とかいうのも例としてあるとは思いますが、ただ、あまりそれにとらわれ過ぎるよりも、やはり中学校としての教科書として捉えて考えたほうがいいとのことでした。

また「いじめなどのいわゆる現代的な課題と、名作などの定番の教材とのバランス」についての質問には、

名作であったり定番教材というのは多いことは多いですが、現代的な課題を扱っている資料も入っています。男女ともに引きつけていくような資料等も入っており、バランスよく対応できるようにはなっているとのことでした。

「現場の状態や教師の力量から考えて別冊はあった方がいいのか、無い方がいいのか？」との質問には、経験の浅い先生方にとっては、別冊のワークシートで筋道を示してある方がいいとは思いますが、力量の高い先生方にとっては、ルールがきちんとひかかれているより、少し余裕がある方がいいとも思われます。ただ、来年のことを考えたとき、道筋はあった方がよいと考えるとのことでした。

[ 教育長 ] 結構、多くの質問があったようですが小学校と中学校の関連については、そのような報告があったとのことでした。

[ 橋本委員 ] 採択委員の質問で、評価について質問されたものがあれば、どのようなもので、どのように答えられていましたか？

[ 福田主幹 ] 「いろいろな教科書がある中で、評価の面で見るとどのような特徴があるか？」との質問には、評価については、大切なことは、子どもたちの考えがどのように変化しているのか、子どもたちがどう考えてきているのかということ資料として残せるかどうかであり、そういう意味では別冊ノートでワークシートが一つにまとまっていてよい。また、自分自身を評価するコメントを書く欄を持っているような別冊は、子どもにも大きな力になっていくと考えられるとのことでした。

[ 教育長 ] 評価については、詳細な報告があったようです。他に、ご質問はありますか。

[ 佐野委員 ] 別冊のノートが気になりますが、採択委員の質問で、別冊ノートについて質問されたものがあれば、どのようなもので、どのように答えられていましたか？

[ 福田主幹 ] 「別冊があるのは、日文とあかつきの2社であります。今の教育現場とか、教師の力量とか、そういうものを考えたとき、別冊があったほうがいいのかどうか」という質問には、

ワークシートを使うということは、決まった道筋がもう明らかにあるということですので、若い先生方にとったら、これは楽ではないかなと思われる節もあります。しかし、ある程度道徳の授業をやってこられている先生にとっては、この中心発問ではなくて、こういう中心発問に変えたいんだというようなことが起こり得ます。そのときは、ワークシートを別に作らなければならなくなります。

ただ、若い先生方、経験の浅い先生のこと、道徳の教科化が初めて始まる来年のことを考えると一定の道筋があったほうがいいだろうと思われます。

そういう意味では、日文のように、中心発問と基本発問が1問ずつ載っていて、最後に自分の振り返りのコメントをするというパターンの別冊を考えるのか、それとも、全然、別冊の意味合いが違うあかつきの『心のノート』のような活用の仕方ができる別冊を考えていくのか、意見の分かれるところであるとのことでした。

「別冊ノートの使い方についてはどうなのか、教材との関係とか、また、ノートの量や、教える側としてはどちらが教えやすいのか？」という質問には、別冊の道徳ノートの使い方につきましては、日文とあかつきでは、編集の方向性が違います。例えば、日文のほうで言いますと、その教材とリンクしていて、教材における基本発問、中心発問



と同じ質問がワークシートという形で載っています。これについては、はじめは使いやすいのかなという意見が多かったんですが、資料を読みこんでいく中で、この基本発問で本当にいいんだろうかと考えさせられることもあります。

ある程度道徳の授業をやっておられる先生がワークシートを作るのであれば、あと1問、2問は基本発問が必要になってくると思われれます。そうなれば、新たにワークシートを用意することになって、これまでと変わらないということになります。

なので、日文を使うかどうかとなると、若い先生は使う可能性は大なんですけども、ある程度やってこられている先生は、自分なりのアレンジを考えると日文は難しい面があります。

一方、あかつきのほうは、ワークシートとしての活用ではなくて、『心のノート』のように資料を使って内容項目、道徳的価値を心の中に植えつけた中で、自分を振り返ることにつなげていきます。しかし、その分、全ての教材において、あかつきの別冊ノートを使うというのは時間的にも難しいのではないかと考えられます。

ただ、深めていくという観点で言えば、1学期間のうちで2回、3回、この時にこういうことをやったという振り返りの中で、別冊ノートを活用した道徳授業というのも成り立つのではないかという意見もありました。

[ 教育長 ]

別冊ノートについては、あかつきと日文ですが、その編集方法が大きく異なっているという報告です。他に、ご質問はありますか。

[ 人見委員 ]

採択委員会での協議は、他にどのような意見が出ていましたか？

[ 福田主幹 ]

山城では若い教師が増えている中で、筋道があったほうが良いと考えるので、別冊ノートがあること、また、資料の持っている力、受け継がれてきた作品、また、道徳的価値の多様性を含んでいるということ。さらに、文字が大きくて読みやすいものということを考えて総合的に判断したとき、あかつきがよいのではないかと。

次に、指導内容や発問などを学年で色々と工夫をしながらやれるという意味では、むしろ別冊ノートはないほうが良いかなと思う。

別冊ノートに色々子どもに書き込ませておいて、それを集めれば、評価もしやすいという見方も一方ではありますが、できたらワークシート全てをつくったほうが良いかなと思います。それぐらいの努力はしたほうが良いんじゃないかな

次に、あかつきのワークシートはわかりやすくできていると感じた。何かいろんな情感に訴えての正義感とか思いやりとかは非常に大事であり、それを大事にするためにも、基本の部分である、お互いが共に生きていく上でのルールをみんなが守らないといけないといったことをこの教科書はきちっと整理されている。

次に、別冊の扱いは難しい。50分の授業の中で、あかつきの別冊の活用まではむづかしいのではないかと。

次に、あかつきは、内容的に中学校の実績もあり、名作がある。別冊のほうは、日文はダイレクトにその資料に対応した形のノートですが、あかつきはどちらかと言えば、国の『心のノート』の関連で作られていて、教科書との関連が別冊ノートの下に書かれています。1項目に最高3つの関連教材が扱われていて、担任の先生が工夫しやすいのは、あかつきであると思う。他にもたくさんの意見が出されましたが、主な意見として報告します。

[ 教育長 ]

私も参加しましたが、様々な意見が出されております。報告された以外にも様々な意見がありました。最終的には、報告にありました通りあかつきで採択されたとのことです。

それでは、八幡市教育委員会として平成31年度以降使用中学校「特別の教科 道徳」教科用図書採択の協議を行いたいと思います。教科用図書採択について、ご意見等はございますか。

[ 人見委員 ]

廣済堂あかつきの教材ですが、日本文教出版や東京書籍なども同様ではありますが、



私も以前読んだことがあるような心を揺さぶる名作といわれるものや、現代的課題に応じた新作、実話に基づいた教材を扱い、教材の配置のバランスがよく、より深く道徳的に感じるができるのではないかと感じました。

[ 教育長 ]

ありがとうございます。他の委員の方々は、いかがでしょうか。

[ 橋本委員 ]

私は道徳は自分の生き方についての考えを深めることが大切だと思っています。特に中学生の頃は思春期を迎え、自分というものに対して自分の中で対話するようなことが多くなる時期でもあると思います。

そういった意味で、別冊「道徳ノート」で更に深く自分を振り返り、理解を深めさせることができるあかつきがいいと思います。

[ 教育長 ]

ありがとうございます。他の委員の方々は、いかがでしょうか。

[ 佐野委員 ]

私は、道徳の時間に自分との対話だけでなく、友達との意見のやり取りというのが大変大事だと思います。SNSなどで簡単なやり取りだけでなく、自分の言葉で道徳的な価値についてお互いに話をするのが大切だと思いますが、なかなか普段そんなことはしにくいのではないかと感じます。道徳の時間だからこそできる、またしてほしいと思います。そのような点から「考える・話し合う」を教材ごとに設けている点であかつきがいいなと思います。

[ 教育長 ]

松下委員は、当日参加していただいておりますが、どうでしょうか。

[ 松下委員 ]

昨年度は、小学校の教科書を採択しております。私個人の考えは、ある教科書などは、国語の教科書じゃないかと見間違えるような、内容が非常に道徳的で文章が整った教科書があるわけです。しかし、小学校の段階で文章が長すぎると読み取るのに時間がかかりすぎると本分である道徳の授業時間が少なくなると思いこざりましたが、中学校の場合は、小学校より文章は、長くなっています。あかつきも例外なく文章は長くなっており教科書自体も少々重く気になりますが、道徳の授業の在り方という意味では、教科書に沿って様々な授業の在り方があって良いと思います。道徳の評価の対象にするには、あかつきのワークシートが上手なつくりになっていて、なっていると思います。また、子ども達にとっても1年間の道徳の授業の振り返りができるようになっていて、財産になる様なつくりになっています。その部分で日文のワークシートより良いと思いますし、色々な授業展開を考慮した結果、8社の中では、あかつきが良いと思います。

[ 教育長 ]

ありがとうございます。

自己評価について、一言考えを述べさせていただきますが、自己評価欄を設けている教科書と設けていない教科書があります。自己評価の考え方で配慮しなければならないのは、子ども達の自己評価をもって、教師の評価につなげないことだろうと思います。自分が授業を通じて学んだこと考えたことについて、自分自身を振り返ることについては、大切だと思います。その様な自己評価であれば教師に気に入られるような自己評価をすることには、つながらないと思います。

他に意見はありませんか。ないようでしたら、採択を行いたいと思います。

山城教科用図書採択地区協議会で採択されました廣濟堂あかつき株式会社「中学生の道徳」を八幡市教育委員会として採択することに賛成の委員は、挙手をお願いします。

《全員挙手》

ありがとうございます。

全員一致で廣濟堂あかつき株式会社「中学生の道徳」を採択します。

次に続きまして、小学校教科用図書について、協議させていただきます。事務局から説明ください。

(2) 平成31年度使用小学校教科用図書に係る採択について

[ 福田主幹 ]

平成31年度使用、小学校教科用図書については、平成29年度検定において新たな図書の申請がなかったことから改めて調査・研究は行わず、平成26年度採択における調査報告書を活用し、小学校教科用図書を選んでいただくこととなっております。



山城教科用図書採択地区協議会において、平成26年度において共同採択された教科書国語「光村図書」、国語書写「東京書籍」、社会「日本文教」、社会地図「東京書籍」、算数「啓林館」、理科「啓林館」、生活「啓林館」、音楽「教芸」、図工「日本文教」、家庭「開隆堂」、保健「東京書籍」をそのまま平成31年度使用教科書として採択されました。

以上、報告します。

[ 教育長 ]

それでは、小学校教科用図書について何か意見等はございませんか。

[ 橋本委員 ]

現行の学習指導要領のもとに今の教科書でやられていますけれども、それで、さして支障があったということも一切聞いておりませんので、今使用している教科書でいいと思います。新しい教科書の引き継ぎもなかったということですから、このまま継続するということでもいいと思います。

[ 教育長 ]

現行のまま採択していいのではないかというご意見でございます。他にご意見ございませんか。

それでは、他にないようですので採択を行いたいと思います。採択については各教科一括採択とさせていただきます。それでよろしいですか。

平成31年度使用の小学校教科書は、現行の教科書をそのまま採択することについて賛成の方の挙手を願います。

《全員挙手》

ありがとうございます。

全員一致で平成31年度使用の小学校教科用図書につきましては、国語「光村図書」、国語書写「東京書籍」、社会「日本文教出版」、社会地図「東京書籍」、算数「啓林館」、理科「啓林館」、生活「啓林館」、音楽「教育芸術社」、図画工作「日本文教出版」、家庭「開隆堂」、保健「東京書籍」、以上を採択します

その他何かありますか？

本日の議題の採択については終わりましたが、山城教科用図書採択地区協議会の議事録と報告書につきましては、規約上公開することになっておりますので、閲覧希望者に対して、学校教育課の窓口で公開したいと考えております。

それでは、以上をもちまして、臨時教育委員会を閉会させていただきます。

傍聴の皆様のお疲れ様でした。